



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 組織情宣部
2024年6月20日 No.781

「みどりの窓口」を軽視した問題点が露わになる！

JR東日本は5月8日の社長会見で「みどりの窓口の縮減計画を凍結」「廃止窓口の柔軟な開設」など、利用実態にあわせて対応していくことを発表しました。

東日本ユニオンは、この間、経営側と2019年に『駅の変革と新たな顧客接点づくり（今後の旅行業部門の方向性）』に関する申し入れ、2021年には『駅の変革のスピードアップ～Plus Valueの実現に向けて～』に関する申し入れについて団体交渉で議論を行ってきました。

「びゅうプラザの閉鎖」や「みどりの窓口の縮減」など、駅で働く社員の声として、団体交渉の席上で指摘してきたことが顕在化するなど、多くのお客さまにご不便をおかけする事態となっています。また、その対応に追われる社員の苦労は日々増すばかりで、施策への不満や不信の声が東日本ユニオンに寄せられています。



施策のみが独り歩き・・・



システムへの移行による見通しの甘さや 実態を軽視した効率化のみを推進した結果ではないのか！

東日本ユニオン申第28号

ご利用実態に即した「みどりの窓口」等の販売体制の再構築に関する申し入れ

1. 「みどりの窓口」の縮減計画を中止し、ご利用実態に合わせて再設置すること。
2. 出札業務に特化した社員の要員を増とすること。
3. 年度初における学校等への定期券出張販売を再開すること。
4. 「駅たびコンシェルジュ」において、きっぷの発売を行えるようにすること。

みどりの窓口



ご利用されるお客さま視点や 現場第一線で働く社員視点で

「みどりの窓口」を含めた販売体制の再構築と施策を見直す必要がある！